

見つけた、触れた、ひらめいた！

本校の育成する資質・能力

知識・技能

思考力・判断力・表現力

主体性・協働性

- 1 日時 令和2年11月4日(水) 14:00～14:50
- 2 学年・学級 1年C組(男子18名 女子16名 計34名)
- 3 場所 美術室
- 4 題材について

(1) 題材観

本題材は、中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 美術編のA表現(1)のア「(ア)感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想」(2)のア「(ア)創意工夫して表す技能」「(イ)見通しをもって表す技能」、およびB鑑賞(1)のア「(ア)感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現に関する鑑賞」、さらに共通事項(1)の「ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること」、「イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること」の内容である。

本題材では、次のような資質・能力を育成することと示されている。

A 表現

(1) 表現の活動を通して、次のとおり発想や構想に関する資質・能力を育成する。

ア 感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。

(2) 表現の活動を通して、次のとおり技能に関する資質・能力を育成する。

ア 発想や構想をしたことなどを基に、表現する活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表すこと。

(イ) 材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表すこと。

B 鑑賞

(1) 鑑賞の活動を通して、次のとおり鑑賞に関する資質・能力を育成する。

ア 美術作品などの見方や感じ方を広げる活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること。

〔共通事項〕

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。

イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

小学校図画工作科の「材料や場所などの特徴を基に造形遊びをする」と共通する活動を通して、自然物や身の回りの材料からお気に入りの形を発見し、楽しみながら発想を広げる。素材を手にしていろいろな角度から観察し、形や色や肌触りなどの特徴を把握し、何かの形に見立てたり、組み合わせたり、構成したりして、自由に発想する力を伸ばす。

以上をねらいとして本題材を設定した。

(2) 生徒観（調査結果等から見る課題）

本題材を始めるに当たって、生徒に事前アンケートを実施した。その結果が次の表である。

1. 小学校の図画工作で似たような内容（身の回りの材料で動物を作る）をした経験がありますか？	
ある 15人（47%）	ない 17人（53%）
2. 今回の課題設定「身の回りの材料を自由に組み合わせて動物を作りなさい」に興味を持っていましたか？	
とても興味がある 13人（42%）	あまり興味がない 1人（3%）
まあまあ興味がある 16人（52%）	まったく興味がない 1人（3%）
3. 上の答えの理由は何ですか？	
楽しそう 11人（36%）	作ることが苦手 1人（3%）
作ることが好き 9人（30%）	思いつかない 1人（3%）
共同制作だとたくさんのアイデアが出そう 6人（19%）	
動物というテーマが身近でよい 2人（6%）	
作りたい動物がある 1人（3%）	
4. この課題を進める上で、難しいと予想されるのはどんなことですか？（複数回答あり）	
意見の出し合い、まとめり 11人	
材料集め、材料選び 10人	
制作 9人	
細かい部分や形の表現 9人	
材料の接着、接合 5人	
時間の制約 1人	

これによると、小学校の図画工作で約半数の生徒たちが身の回りの材料を使って動物などを作る経験をしており、学習に対するレディネスがあることがわかった。また、経験している生徒は個人制作であり、今回のような班による共同制作を経験していない。そのため、多様なアイデアが出ることを期待している生徒も多く、話し合いにより一層よい物が作れそうだという期待感が感じられる。

一方、①班の話し合いがまとまるかどうか、②材料集めや材料選びがうまくできるか、③材料同士の接着がうまくできるかなどに難しさを感じている生徒も多く、それらが課題となる。

(3) 指導観（指導改善のポイント）

指導に当たって、①についての手立ては、班ごとに毎時間、ワークシートを配布する。このワークシートには、前回の最終段階の作品の写真を貼るようにし、前回の改善策をもとに今日の目標を記入できるようにする。ワークシートの活用により、作業に臨むに当たって目標を立て、最後に振り返りを行い次につなげる話し合いがねらえる。②についての手立ては、生徒が材料を持ち寄るのが原則であるが、必要に応じて動物の特徴を表すのに適した材料の選択や組み合わせなどの支援を行う。③についての手立ては、ホットメルト型接着剤を多数用意し、制作時のストレスを軽くする。また、材質により適した接合方法を提案する。

本題材の目標

知識・技能	<p>【知識】形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解する。〔共通事項〕</p> <p>【技能】意図に応じて工夫して表現し、制作の順序などを考えながら、見通しをもって表す。「A表現」(2) 技能</p>
思考力・判断力・表現力	<p>【表現】対象の特徴や形のイメージから主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現の構想を練る。「A表現」(1) 発想・構想</p> <p>【鑑賞】造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。「B鑑賞」(1)</p>

学びに向かう人間性	美術の創造活動の喜びを味わい、感じ取ったことや考えたことなどを基に絵や彫刻に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。
-----------	--

本校で育成を目指す資質・能力と評価規準との関わり

資質・能力	本校が育成を目指す資質・能力	本校が育成を目指す資質・能力を身に付けさせるための手立て
知識・技能	○材料の特徴を生かしてあらわすことができる。	・アイデアスケッチ ・班での話し合い
思考力・判断力・表現力	○材料の形や色などから発想を広げることができる。	・参考作品の鑑賞 ・班での話し合い
主体性・協働性	○発想のおもしろさや工夫した点を話し合うことができる。 ○自然物や身の回りの材料のおもしろさを感じ取ることができる。	・制作過程の映像記録 ・相互鑑賞会

単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考力・判断力・表現力	ウ 主体性・協働性
①材料の特徴を生かしてあらわすことができる。	①材料の形や色などから発想を広げることができる。	①発想のおもしろさや工夫した点を話し合うことができる。 ②自然物や身の回りの材料のおもしろさを感じ取ることができる。

指導と評価の計画

次	学習内容	評 価
		評価規準（評価方法）
1	○参考作品の提示と課題理解	身の回りの材料のおもしろさを感じ取ることができる。（行動観察、ワークシート） 【イー①思、ウー②主】
2	○材料を持ち寄ってのアイデアスケッチ（個人思考）	材料を見立てて動物のイメージを発想し、制作の構想を持つことができる。（スケッチ） 【イー①思】
3	○動物の決定と制作の計画（集団思考） 制作（1）	動物の特徴を表す構想を練り、制作の見通しを立てることができる。（ワークシート） 【アー①知、イー①思、ウー①協】
4	○制作（2）	材料の特徴を生かしてあらわすことができる。（作品）【イー①思】
5	○制作（3）	材料の特徴を生かしてあらわすことができる。（作品）【イー①思】
6	○制作（4）	材料の特徴を生かしてあらわすことができる。（作品）【イー①思】

7 (本時)	○相互鑑賞	発想のおもしろさや工夫した点を話し合うことができる。(行動観察, ワークシート) 【イー①思, ウー①協】
-----------	-------	--

本時の学習

(1) 本時の目標

お互いの作品を鑑賞し、感じたことや考えたことを伝え合い、見方や感じ方を広げることができる。
(思考力・表現力・判断力/学びに向かう力・人間性等)

(2) 観点別評価規準

B	A	C
具体的な例を挙げて、作品から感じた良さや工夫した点について記述ができる。	色や形, 材料, 特徴などの造形用語を用いて、具体的な例を挙げて、作品から感じた良さや工夫した点について記述ができる。	作品から感じた良さや工夫した点に気づいた記述ができる。

(3) 準備物 PC モニター ワークシート 作品 作品の写真(大)

(4) 学習の展開

	学習活動	◇指導上の留意事項 ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて	評価規準 (評価方法)
導入	① 鑑賞会の流れを確認する。 ② めあての提示 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 本時のめあて 工夫した点や試行錯誤した点を発表し合い、作品のおもしろさや良さを伝え合える。 </div>	◇司会進行役の生徒がすすめる。 ◆流れを黒板に掲示しわかりやすくする。	
展開①	<ul style="list-style-type: none"> ・ひと班ずつ前に出て、自分たちの作品の工夫した点や試行錯誤した点を発表する。 ・聴く側の生徒は個人でワークシートに感想を書く。 ・発表し感想を交換し合う。 	◇あらかじめ制作の経過を画像で記録したものを生徒がパワーポイントで提示する。 ◆制作過程にも着目させる。 ◇どの班も工夫した点が評価されるようにする。	発想のおもしろさや工夫した点を話し合うことができる。 (行動観察, ワークシート)
展開②	※展開①のサイクルを5回繰り返し、すべての班が発表を行う。		
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の振り返りを書く。 ・振り返りを発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> ○生徒の振り返り例 <ul style="list-style-type: none"> ・班で意見を出し合いながら、計画的に、材料を工夫して○○を作ることができた。 ・1班の○○は材料の色や特徴を工夫して、毛並みや質感までも表現していてすごいと思った。 ・鑑賞会をすることで、自分たちの班にはなかった他の班の工夫がわかり、見方が広がった。 ・木の実や枝、葉っぱなどの自然物だけで生き生きとした○○を表現することができた。 </div>	◇発表しやすい雰囲気をつくる。	